

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 7月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5		
自己評価作成日	令和3年5月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年6月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍での運営を強いられてのこの一年余り、この間、苑では「日常」を見直す良い機会ととらえました。大きな行事は行わず、代わりに手作りで心温まる小さな行事を沢山行いました。車いすでご近所へ桜の名所への散歩、手作りのお花見弁当を皆で庭で召し上がって頂いたり、甘い物が好物の皆様に日常のおやつを手作りしたりと知恵と工夫の毎日でした。おかげ様でコロナ禍以前よりもっとずっと穏やかに温かい施設となりました。コロナが落ち着いても日常の温かさを大切に運営を続けていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

真心と笑顔を最も大切に日々の支援に尽力し、理念に沿ったケアが実践されている。朝礼時には職員一人ひとりが気付いた事を発表する取り組みにて利用者やケアに対する観察感が養われ、利用者の特性に応じ一人ひとりに寄り添った支援となっている。地域との繋がりも多く、地区の運動会や子供神輿、小学校とのハロウィンイベント交流、大学生の音楽ボランティアなど、様々に交流が行われている。自治会長や民生委員との関わりも深く、地域から野菜のおすそ分けを頂くことも多くあるなど、地域との馴染みの関係が深く築かれ運営が行われている。食事は3食手作りであり美味しく温かい食事の提供がなされ利用者の喜びとなっている。コロナ禍で外出や外食など難しい状況下であるが、小さな行事や、花見に手作り弁当を作ったり、おやつの手作りなどできることに着目しながら創意工夫を重ねている。

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝、申し送り時、理念である「私たちは、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中で一人一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」と唱和し、理念に基づいた取り組みができるよう意識付けをしている。	朝礼にて理念を唱和し職員一人ひとりが理解し周知している。理念は開設時に職員全員で考案したものであり「真心と笑顔」を職員の基本姿勢とし、利用者一人ひとりにしっかりと目を向けた取り組みが一貫して実践されている。朝礼時に職員一人ずつ気付きを発表する取り組みにて職員の観察力や自主性も向上した。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	開所当初から町内会に入会し、地域行事(運動会、ハロウィン、子供みこし等)には積極的に参加している。また、近所の方からの野菜のおすそわけも多く、良好な関係を築いている。	コロナ禍で地域行事など中止が多くあるが、開設時より町内会に加入し、電話のやりとりや会報が届くなど、繋がりを継続している。地区運動会には毎年招待され、利用者や職員も競技に参加できる配慮がなされ、小学校との交流や大学生の音楽療法ボランティアなど様々な交流やふれあいのある活動が展開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる環境作りに努めていたが、現在はコロナ禍でもあり開催できていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしている。例えば薬剤師に薬の飲み合わせについてお話を伺い日頃のケアやサービスの向上に活かしている。	会議には毎回数多くの参加者があり、活発な意見交換がなされている。毎回、知見を有する方をゲストとして招き、出前講座や勉強会等学ぶ場を共有し、ケアの向上に繋げている。地域では民生委員の会合に持ち帰った会議内容が報告され、勉強の場ともなり地域からの議題の要望が挙がるなど循環し活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターの方へ出席いただき、日頃の施設運営について報告している。時には、アドバイスを頂くこともあり、その協力関係においても良好な関係を構築している。	運営推進会議において地域包括支援センター職員の参加があり、質疑や情報交換を行い、随時利用者の紹介を受けることや徘徊ネットの登録、サポーター研修の講師協力を行うなど綿密な連携を図っている。介護保険課とも介護報酬改定時など質問を適宜に行っている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新人研修も含め、定期的に研修会を行い、身体拘束の危険性など常に意識として確立し、ほぼ1年を通して玄関を無施錠とし、閉鎖的な空間とならないよう取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会のメンバーに医師も参加し委員会を開催しており、適宜検討や研修を実施し周知と防止に努めている。第一に日々のケアに目を向け自分たちの取り組みや介護の方法を見直すことを徹底し、医師への相談を行う等連携を図り身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、高齢者虐待についての正しい理解に努めている。また、職員の対応で気になることがあれば、都度声を掛け、注意しあえる環境作りにも配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ会議において日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学び、必要とされる利用者様がおられた場合には、橋渡しできるよう準備態勢を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、わかりやすく説明を行うことを心がけている。また、契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得されるまで話し合いを重ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時又は電話にて、利用者様への支援方法を報告・相談している。必要に応じてご家族様の意見・要望を伺い、頂いた意見は、ケアへ反映させ、サービスの質の向上へ役立てている。	日々の関わりから利用者の思いを汲み取り把握に努めている。自宅に帰りたい希望に家族の協力を得ながら行う等思いの実現に努めている。家族へは面会時や電話連絡にてこまめに意見を伺っている。年1回家族会を開催している。多くの家族参加があり直接意見を聞ける貴重な機会となり運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見や提案に耳を傾ける機会を設けている。また、管理者は、普段から積極的に職員とコミュニケーションを図り、なんでも話せる関係作りに努めている。	管理者は普段から職員への関わりや配慮に意識を高くもちコミュニケーションを図ることで職員も意向や思いを伝えやすい職場風土が作られている。毎月の職員会議には代表者も必ず参加し職員の意見に耳を傾けており、物品購入をはじめ勤務調整や要望、職員の処遇など柔軟に対応がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、今年も4月より全職員の給与が改定されました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの力量の把握に努めている。コロナ禍ではあるが、オンライン研修を活用し、その意識と介護技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、オンライン研修の案内を頂き、必要に応じて参加し、情報交換やサービスの質につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等があった際には、納得して頂くまで傾聴し、安心して生活していく上での関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前は、こまめにご家族様と電話でやりとりし、ご家族様の思いに耳を傾け、信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「思い」「ADL」を正確に把握し、その都度今のケアでよいのか一番適切なサービスは何なのかを多職種で協議し、見極めている。その中で必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中でともに過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるよう努力を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の本人様の様子を面会や電話にて報告し、入所後も本人様の生活を共に支え合う関係を継続できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ここ一年は、思うように面会できない日が続いているが、写真付きの手紙やオンライン面会など考えられる限りの関係継続作りに努めている。	センター方式を活用し、今までの本人の生活や背景を紐解き、散歩やお風呂等の機会に昔のことや良かった時の話など聞き馴染みや思いなどを把握している。家への思いに江田島まで連れて帰ったこともある。コロナ禍で家族に会えない現状にオンライン面会や電話の取次ぎなど工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、時に愚痴を言ったり、励まし合ったりと共に支えあうより良い関係作りとなれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて援助・相談を行い、他施設へ入所される際には、入所先へ在籍中の情報提供を行い、環境や生活習慣の継続ができるよう働きかけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者様の思いや意向は、申し送り等で報告しあい、情報の共有に努めている。意思の把握が困難な場合はご家族様に伺い、生活歴を把握したり、本人様の表情から心をくみ取るよう努めている。	職員の気付きの発表や朝礼後のミーティングにて利用者の様子など状況や意向が細かく把握でき共有されている。また日々のケアの中でみられる傾向を的確に掴み支援に繋げている。家族にも電話連絡にて話を聞くなど情報を得ながら利用者本意の支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、その都度ご家族様へ聞き取り調査を行い、これまで生きて来られた記録を辿るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の様子を毎日申し送りで報告している。それにより、職員一人一人が利用者様の現在の心身の状況や残存機能など理解しようとする目を養っている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様・ご家族様の意向と多職種の意見を組み入れながら現状に即したケアプランを作成している。また、定期的にモニタリングを行いながら実施状態に即しているかの確認をしている。	利用者や家族の確認した思いを基に、朝礼後のミーティングで意見交換を行い、主治医の意見も踏まえ他職種での検討がなされている。原案は職員の気付きやケアに対する思いを基に介護支援専門員がまとめて作成している。本人の現状でできる事に着目し、日々の中で実践できるプランの作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員一人一人が日々の様子の中で気付いたことやケアプランの実施状況を記載し、現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様やご家族様の状況に合わせて、介護保険サービスだけでなくインフォーマルサービスや医療保険サービスを活用するなど常に柔軟な支援ができるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の民生委員や自治会長の方々と積極的に交流を図るとともに地域新聞等を通じて地域の社会資源を把握するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制を整えている。また、口腔内の清潔保持の為、歯科往診も取り入れている。ともに適切な医療体制が行えるよう良好な関係を築けている。	利用開始以前のかかりつけ医の選択も可能であり、家族の協力にて受診している。協力医は月2回の往診に加え、適宜事業所に訪れてくれることで安心して医療を受けることができる。現在は全員が主治医を協力医に変更している。皮膚科をはじめ歯科の往診もあり、口腔内の管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日頃から状態の変化を細かく観察し、いつもと違った変化があればすぐに看護師へ報告するようにしている。看護師も報告をもらったらすぐに確認し、主治医へ報告し、受診をするなど適切な処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又、長期入院になると本人様のストレスが増大し、認知症が進行する恐れがある為、できるだけ早期に退院できるよう医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。事業所内で看取りを希望されるご家族様も増えており、看取りを希望された場合は、ご家族様・かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーで連携を図り、よりよい最期が迎えられるよう支援している。	看取りの希望となれば、医師をはじめ看護師や介護士、介護支援専門員が家族と共にチームとなり終末期の対応を行っている。こまめな連絡や面会を増やし、管理者や看護師は毎日気を付ける点を職員に伝え情報共有を行い実践している。医療など必要な方は適宜専門機関に繋いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるようスタッフ会議等で急変や事故発生時の処置の研修を行い、慌てず実践できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月の防災訓練や月初めは夜勤者全員による防災訓練を実施し、冷静に対応できるよう日々訓練を重ねている。又、地域の自主防災会に属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害に備えて、食料・プロパンガス・簡易トイレ・発電機・ライフジャケットなどを備蓄し、災害に備えている。	毎月防災訓練を実施し、更に毎月夜勤者による避難訓練、確認も行っており防災意識が高い運営が行われている。事業所は土砂災害警戒区域であり想定訓練を実施し、地域の訓練も参加している。避難時に一般協力者にも分かりやすいよう利用者の情報が分かるプレートを各自に作り対応をしやすくする工夫がある。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃の関わりの中で利用者様の人格を尊重した言葉掛けに十分配慮している。入浴時には、意向に合わせて同性介助を行ったり、パット交換時は扉を閉めたりとプライバシーの確保にも取り組んでいる。	年2回、高齢者虐待防止の研修を行い、高齢者への尊厳やプライバシーの保護に理解を深めている。日々の中で気になる場面があれば管理者やリーダーは適宜指導をしている。利用者の様子に注視して個人に向き合い寄り添うことで一人ひとりの人格を尊重したケアとなっている。書類は鍵付戸棚にて管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴時は、1対1で過ごす為、本人様へ積極的に話しかけ、願いや希望を語ってもらえる努力をしている。言葉で十分意思表示できない場合は、表情をくみ取りながら希望や思いを把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・入浴・食事時間も個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着用する服はご自分で決めていただいたり、2ヶ月に一度は訪問理美容に来苑して頂いている。その際は本人様の希望をお聞きし、希望に添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、毎食手作りを基本とし、冷凍食品やレトルト食品は使用せず、見た目にも十分配慮しながら食事をおいしく食べて頂けるように配慮している。又、利用者様とともに食事の下準備・片づけを行って頂き、役割として確立している。	3食ともに手作りにて美味しく心温かい食事を提供している。一から作ることで献立も利用者の好みや嗜好に反映して提供できるメリットが活かされている。コロナ禍であり外食は難しいが、花見にお弁当を作ったりおやつの手作り、バイキングの実施や出前をとるなど利用者の楽しみに繋がるよう創意工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量・水分量を記録し、適切な食事量・水分量を提供している。又、その中で残食が目立つ方には、代替品や味付けを変更したり、盛り付ける器にも配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きを行っている。又、定期的に歯科往診を行い、異常の早期発見と清潔の保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探りながら全利用者様ができる限りトイレで排泄できるように全職員で丸となって取り組んでいる。</p>	<p>可能な限りトイレで排泄が行えるよう意識し取り組んでいる。個人の排泄パターンを基に、腹圧をかけるなど排泄が上手くいった情報を職員間で共有し支援を重ねている。個人の状態を把握しトイレに誘導することで下着も布パンツに移行が可能になった例やパットの大きさを変更した例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事の中で乳酸菌・繊維質の食品を取り入れたり、毎日の運動の中に腸トレ体操を行うなど便秘予防に努めている。排泄表を活用しながら便秘の原因を探り個別にメニューを提供したりと工夫に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴担当の職員は、入浴の時間が楽しいひと時となるようその方がお好きな話題で会話を盛り上げるなど工夫に努めている。</p>	<p>週2回の入浴を基本としているが、肌の状態により毎日入浴の方や希望があれば入浴ができるよう支援している。お風呂の苦手な方にも声かけの工夫や、対応者を変える等入居者に寄り添った対応をしている。同性介助や入浴時間、お湯の温度なども個人に合わせて調整している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>夜間の睡眠時間を把握し、睡眠時間が短い方は、日中休息して頂く時間を多く作るなど工夫している。夜間、眠れない時も無理強いせず、本人様のペースに合わせて支援を心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師と薬剤師は、薬の飲みあわせや副作用について情報を共有しながら、確実に服薬できるよう連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>お一人お一人得意なこと・好きなことを職員間で情報を共有し、それを活かせる場を提供し、少しでも張り合いのある生活が送れるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、苑外散歩に出掛ける事を日課とし、外気に触れる事で季節を感じながら気分転換を図って頂いている。時には美術館へ出掛けたり、ドライブがてら外食したりと本人様のご希望に添って外出支援を行っている。時には、ご家族様にお願ひし職員では難しい所へ外出して頂いている。</p>	<p>コロナ禍で集団での外出は控えているが、毎日の散歩を日課として年中通して実施している。外気に触れ気分転換になることで利用者の表情も明るく元気の素となっている。以前は美術館へ出かけたり、ドライブに行ったり、家族の協力を得ながら外食やお墓参りなど要望に沿った外出を日常的に実施していた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在、入所されておられる方で金銭管理ができる方はおられない為、事務所で保管し必要時使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には手渡ししている。又、電話をかけたいと希望される際には、都度苑の電話を使用して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、沢山の花を植え、各ユニットではカレンダーを作成している。又、利用者様と一緒に壁面を作成し、季節を感じていただけるよう工夫している。又、玄関ドアや窓も全開し、日中リビングに新鮮な空気と光を取り込める空間とし、心地よく過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>リビングは日当たりもよく明るい空間である。眺める庭にはさくらんぼや梅など実がなる木を植え、鑑賞と共に実を摘んで食べたりし、玄関前にはプランターにたくさんの花を植え水やりを行う等育てることで植物の成長を楽しむと共に、季節の移ろいを十分に感じられるよう配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>独りになりたい時には、無理強いせず、気のあう利用者様同士は隣席に座って頂けるよう一人一人がストレスなく過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自室は、自宅で使い慣れた馴染みの物を持参して頂き、写真を飾るなどして自宅のように落ち着いて頂けるよう工夫している。</p>	<p>仏壇や筆筒など自宅で大事にしていた物や馴染みの物を持参していただけるように勧めている。利用開始前に自宅環境の様子を確認し、移動動線の配慮や写真を飾るなど利用者個々に居心地よく落ち着ける環境を整えている。居室入口には分かりやすいように印をつけ識別しやすくしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は、車いすや独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。又、トイレには、ファンレストテーブルを設置し、入浴時には、シャワーキャリーを使用し、安全安楽に生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目(東ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時、理念である「私たちは、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」と唱和し、理念に基づいた取り組みができるよう意識付けをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	開所当初から町内会に入会し、地域行事(運動会、ハロウィン、子供みこし等)には積極的に参加している。また、近所の方からの野菜のおそそわけも多く、良好な関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる環境作りに努めていたが、現在はコロナ禍でもあり開催できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしている。例えば薬剤師に薬の飲み合わせについてお話を伺い日頃のケアやサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの方へ出席いただき、日頃の施設運営について報告している。時には、アドバイスを頂くこともあり、その協力関係においても良好な関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新人研修も含め、定期的に研修会を行い、身体拘束の危険性など常に意識として確立し、ほぼ1年を通して玄関を無施錠とし、閉鎖的な空間とならないよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、高齢者虐待についての正しい理解に努めている。また、職員の対応で気になることがあれば、都度声を掛け、注意しあえる環境作りにも配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ会議において日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要とされる利用者様がおられた場合には、橋渡しできるよう準備態勢を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、わかりやすく説明を行うことを心がけている。また、契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得されるまで話しあいを重ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時又は電話にて、利用者様への支援方法を報告・相談している。必要に応じて家族の意見・要望を伺い、頂いた意見は、ケアへ反映させ、サービスの質の向上へ役立てている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見や提案に耳を傾ける機会を設けている。また、管理者は、普段から積極的に職員とコミュニケーションを図り、なんでも話せる関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、今年も4月より全職員の給与が改定されました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの力量の把握に努めている。コロナ禍ではあるが、オンライン研修を活用し、その意識と介護技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、オンライン研修の案内を頂き、必要に応じて参加し、情報交換やサービスの質につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等があった際には、納得して頂くまで傾聴し、安心して生活していく上での関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前は、こまめにご家族と電話でやりとりし、家族様の思いに耳を傾け、信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「思い」「ADL」を正確に把握し、その都度今のケアでよいのか一番適切なサービスがなんなのかを多職種で協議し、見極めている。その中で必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中でともに過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるよう努力を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の本人様の様子を面会や電話にて報告し、入所後も本人様の生活を共に支え合う関係を継続できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ここ一年は、思うように面会できない日が続いているが、写真付きの手紙やオンライン面会など考えられる限りの関係継続作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、時に愚痴を言ったり、励まし合ったりと共に支えあうより良い関係作りとなれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて援助・相談を行い、他施設へ入所される際には、入所先へ在籍中の情報提供を行い、環境や生活習慣の継続ができるよう働きかけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者様の思いや意向は、申し送り等で報告しあい、情報の共有に努めている。意思の把握が困難な場合は家族様に伺い、生活歴を把握したり、本人様の表情から心にくみ取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、その都度ご家族へ聞き取り調査を行い、これまで生きて来られた記録を辿るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の様子を毎日申し送りで報告している。それにより、職員一人一人が利用者様の現在の心身の状況や残存機能など理解しようとする目を養っている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族様の意向と多職種の意見を組み入れながら現状に即したケアプランを作成している。また、定期的にモニタリングを行いながら実施状態に即しているかの確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員一人一人が日々の様子の中で気付いたことやケアプランの実施状況を記載し、現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様や家族様の状況に合わせて、介護保険サービスだけでなくインフォーマルサービスや医療保険サービスを活用するなど常に柔軟な支援ができるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の民生委員や自治会長の方々と積極的に交流を図るとともに地域新聞等を通じて地域の社会資源を把握するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制を整えている。また、口腔内の清潔保持の為、歯科往診も取り入れている。ともに適切な医療体制が行えるよう良好な関係を築けている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日頃から状態の変化を細かく観察し、いつもと違った変化があればすぐに看護師へ報告するようにしている。看護師も報告をもらったすぐに確認し、主治医へ報告し、受診をするなど適切な処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又、長期入院になると本人様のストレスが増大し、認知症が進行する恐れがある為、できるだけ早期に退院できるよう医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。事業所内で看取りを希望される家族も増えており、看取りを希望された場合は、ご家族・かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーで連携を図り、よりよい最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるようスタッフ会議等で急変や事故発生時の処置の研修を行い、慌てず実践できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月の防災訓練や月初めは夜勤者全員による防災訓練を実施し、冷静に対応できるよう日々訓練を重ねている。又、地域の自主防災会に属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害に備えて、食料・プロパンガス・簡易トイレ・発電機・ライフジャケットなどを備蓄し、災害に備えている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃の関わりの中で利用者様の人格を尊重した言葉掛けに十分配慮している。入浴時には、意向に合わせて同性介助を行ったり、パット交換時は扉を閉めたりとプライバシーの確保にも取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴時は、1対1で過ごす為、本人様へ積極的に話しかけ、願いや希望を語ってもらえる努力をしている。言葉で十分意思表示できない場合は、表情をくみ取りながら希望や思いを把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・入浴・食事時間も個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着用する服はご自分で決めていただいたり、2ヶ月に一度は訪問理美容に来苑して頂いている。その際は本人様の希望をお聞きし、希望に添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、毎食手作りを基本とし、冷凍食品やレトルト食品は使用せず、見た目にも十分配慮しながら食事をおいしく食べて頂けるように配慮している。又、利用者様とともに食事の下準備・片づけを行って頂き、役割として確立している。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量・水分量を記録し、適切な食事量・水分量を提供している。又、その中で残食が目立つ方には、代替品や味付けを変更したり、盛り付ける器にも配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きを行っている。又、定期的に歯科往診を行い、異常の早期発見と清潔の保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探りながら全利用者様ができる限りトイレで排泄できるように全職員で一丸となって取り組んでいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事の中で乳酸菌・繊維質の食品を取り入れたり、毎日の運動の中に腸トレ体操を行うなど便秘予防に努めている。排泄表を活用しながら便秘の原因を探り個別にメニューを提供したりと工夫に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴担当の職員は、入浴の時間が楽しいひと時となるようその方が好きな話題で会話を盛り上げるなど工夫に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>夜間の睡眠時間を把握し、睡眠 時間が短い方は、日中休息して 頂く時間を多く作るなど工夫し ている。夜間、眠れない時も無 理強いせず、本人様のペースに 合わせて支援を心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>看護師と薬剤師は、薬の飲みあ わせや副作用について情報を共 有しながら、確実に服薬できる よう連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>お一人お一人得意なこと・お好 きなことを職員間で情報を共有 し、それを行かせる場を提供し 、少しでも張り合いのある生活 が送れるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>天気のよい日は、苑外散歩に出 掛ける事を日課とし、外気に触 れる事で季節を感じながら気分 転換を図って頂いている。時 には美術館へ出掛けたり、ド ライブがてら外食したりと本人 様のご希望に添って外出支援を 行っている。時には、家族様 にお願いし職員では難しい所 へ外出して頂いている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>現在、入所されておられる方 で金銭管理ができる方はおられ ない為、事務所で保管し必要時 使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には手渡ししている。又、電話をかけたいと希望される際には、都度苑の電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には、沢山の花を植え、各ユニットではカレンダーを作成している。又利用者様と一緒に壁画を作成し、季節を感じていただけるよう工夫している。又、玄関ドアや窓も全開し、日中リビングに新鮮な空気と光を取り込める空間とし、心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたいときには、無理強いせず、気のあう利用者様同士は隣席に座って頂けるよう一人一人がストレスなく過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室は、自宅で使い慣れた馴染みの物を持参して頂き、写真を飾るなどして自宅のように落ち着いて頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車いすや独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。又、トイレには、ファンレストテーブルを設置し、入浴時には、シャワーキャリーを使用し、安全安楽に生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長束

作成日 令和3年7月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	現在の職場をもっと良い環境にするには？とアンケートを取った結果、「コミュニケーション不足」が一番多い意見だった	職場間でいかに上手にコミュニケーションを取る事ができるか意識を持って仕事にあたる。	各シフトの引き継ぎ、日常業務での「あ・うん」の呼吸、連絡ノートの活用	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。